

うしくでびっくり!

NO41

ひたち たけだけのまき

おくの
さくし

常陸武田史

(我が家の歴史) 昭和十二年九月(一九三七年)

第十二代の當主 唯根伊與謹記

さく おくの地区社協
いいだあきお

なっちゃんが、しょうじき
ちくのこみちをさんぽしてい
ると おかあさんが、

「このちくでは、**ゆいね**とい
うみょうじがおおいんだよ」
という。

「え！ほんとう。どうしてな
の？」

「ん～、知らないわ」



なっちゃん、おじいちゃんに きいてみることにした。ものをよく知っている おじいちゃんが、だーいすき。

あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？

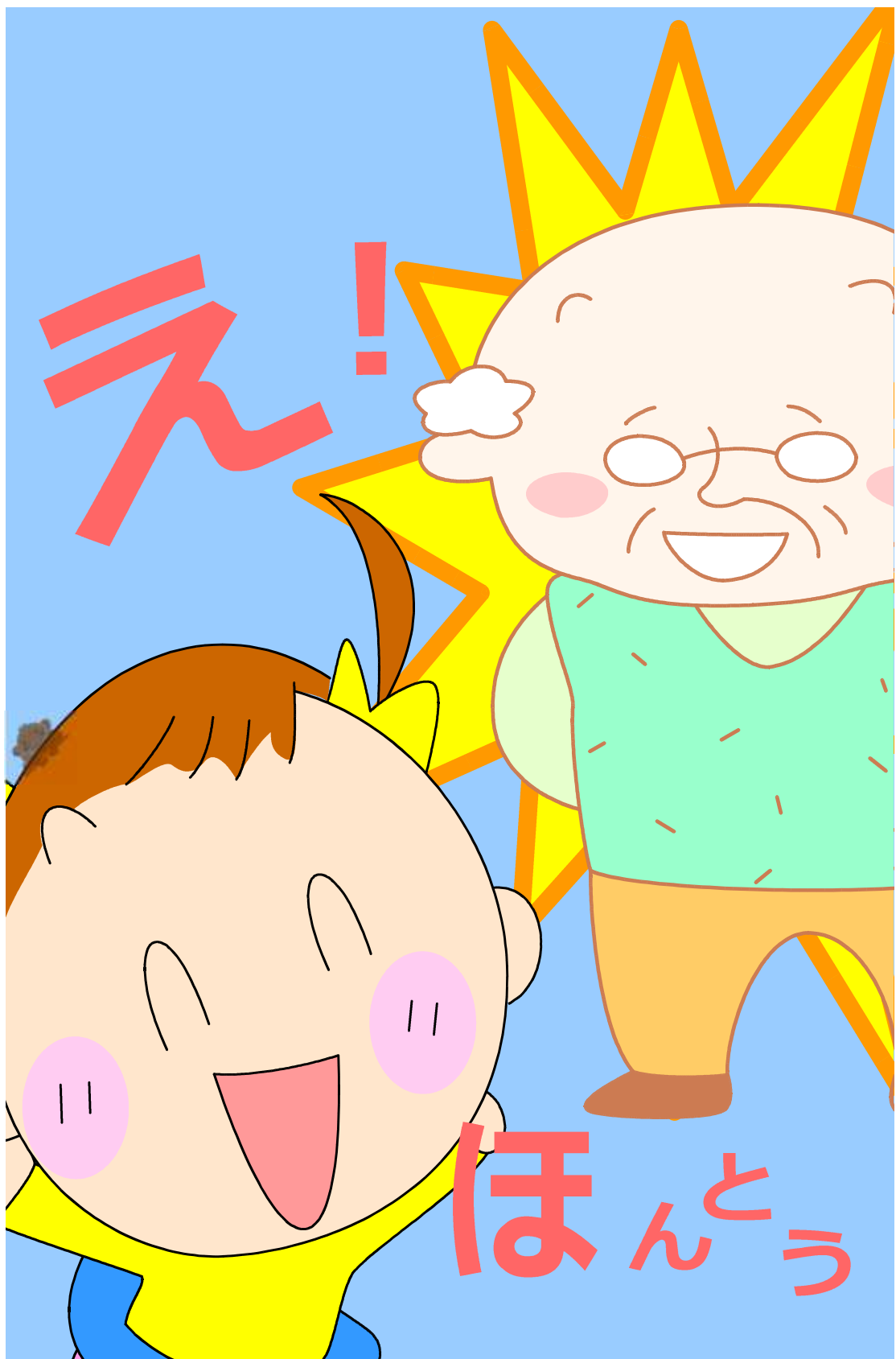


わたしは、なぜなぜで一す。

おじいちゃんに
きいてみると



「そうだな・・・。しょうじきには、ゆいねというみょうじが、10けんくらいあるとおもったな。くわしいことは、ちようべえさんにきいてみるか。いっしょにいつてあげるよ」



やくそくのひ。おじいちゃん
と ちょうべえさんのいえ
にいった。

なっちゃん、ゆうきをだし
て、ゆいねというみょうじに
ついてきいてみた。

ちょうべえさんが、こたえ
てくれた。

たしかにしょうじきにゆい
ねというみょうじが、おい
かな。

びっくり!



ほんとう？

おくのちくのちず



ここが、
しょうじきちくだ。



しょうじきというちめいは、せんごくこうき（戦国後期）のおかみし（岡見氏）のちぎょうかきあげ（知行書上）のなかに「正直」とでてくるだ。こくだか（石高）は、えどじだいのげんろくごうちょう（元禄郷帳）では、やく171こくだ。

ここで、**ゆいね**というみょうじをパソコンでしらべてみた。すると・・・



いばらきけんには
やく 1 5 0 にん。

そのうち、**うしくし**には、
やく 1 2 0 にん、いるらしい。

そのなかで、
おくばらに やく 1 0 にん。

しょうじきに やく 9 0 にん。

たぐうに やく 1 0 にん。

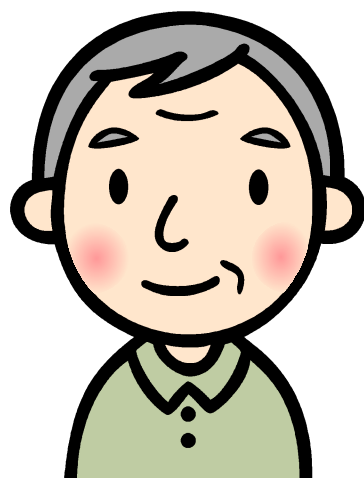
かみやに やく 1 0 にん。

いるらしいんだ。

(資料 名字由来ネットより)

ちようべえさんによると、しょうじきで、ゆいねをなのっているのは、やく20けん。うしくしないでゆいねをなのっているのは、しょうじきからでたひとばかり。

このほかに^{つちうら}土浦、^{あみ}阿見、^{いなしき}稲敷、^{とうきよう}東京などに^{てんざい}点在しているんだ。



びっくり!

やっぱり!

しょうじきに おおいんだ!

びっくり!



どうして?

「ん～、わからないわ」

では、どうして、**ゆいね**というみょうじが、おおいのか
というと・・・。

じつはね。こんな**ほん**があるんだよ。このほんは、12
だいとうしゅ**ゆいね**^{ゆいね}**これとも**^{これとも}伊與さんが、あらわしたんだ。



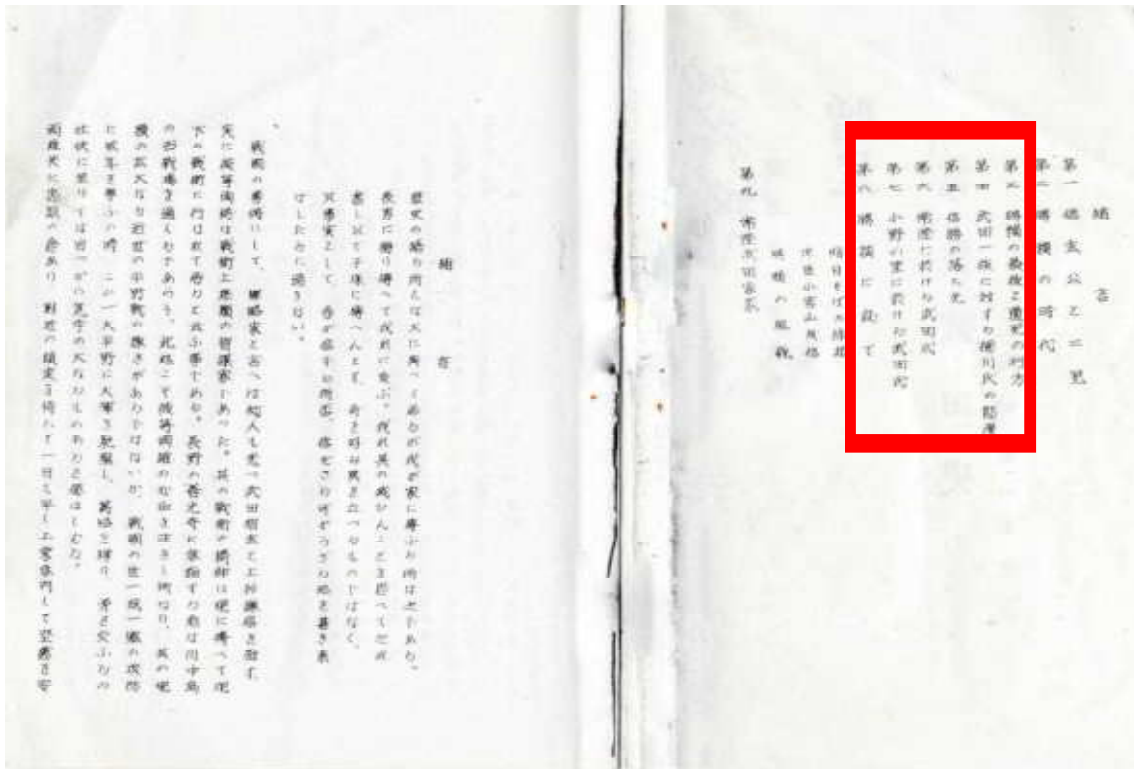
伊與さんは、明治後期から
大正時代に上級官僚として、
かつやくしたひとなんだ。



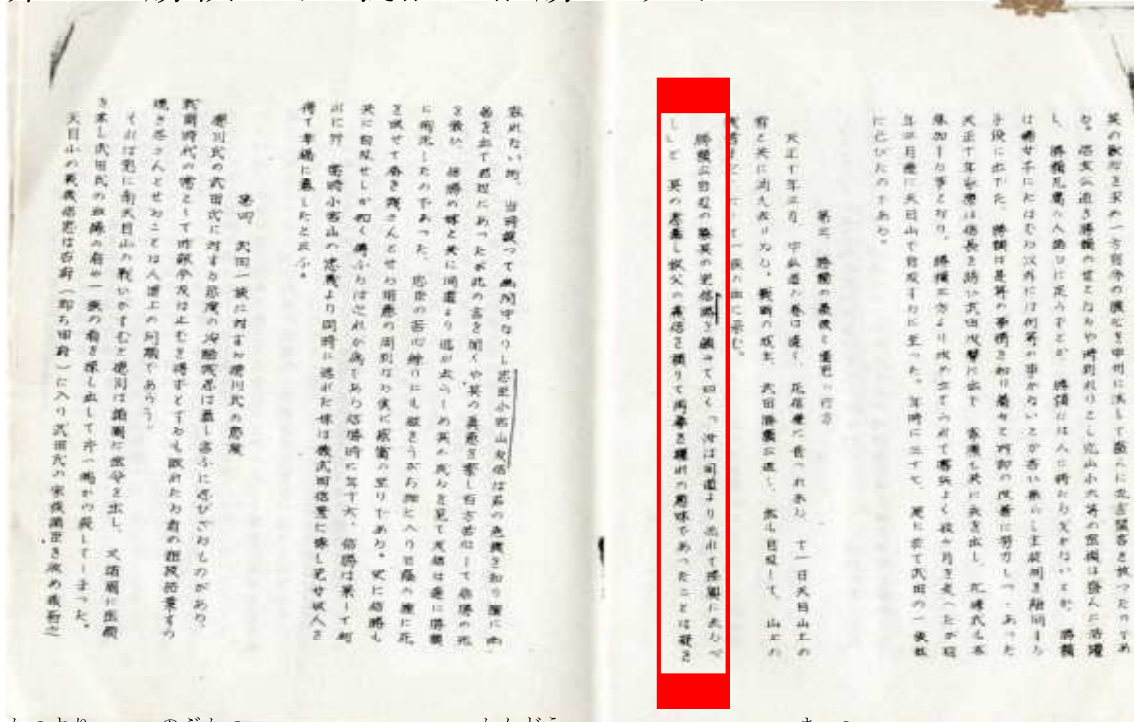
←このじんぶつ

1. 大正11年7月15日 皇太子殿下（昭和天皇）行啓
昭和天皇との記念写真

ほんのないようは、

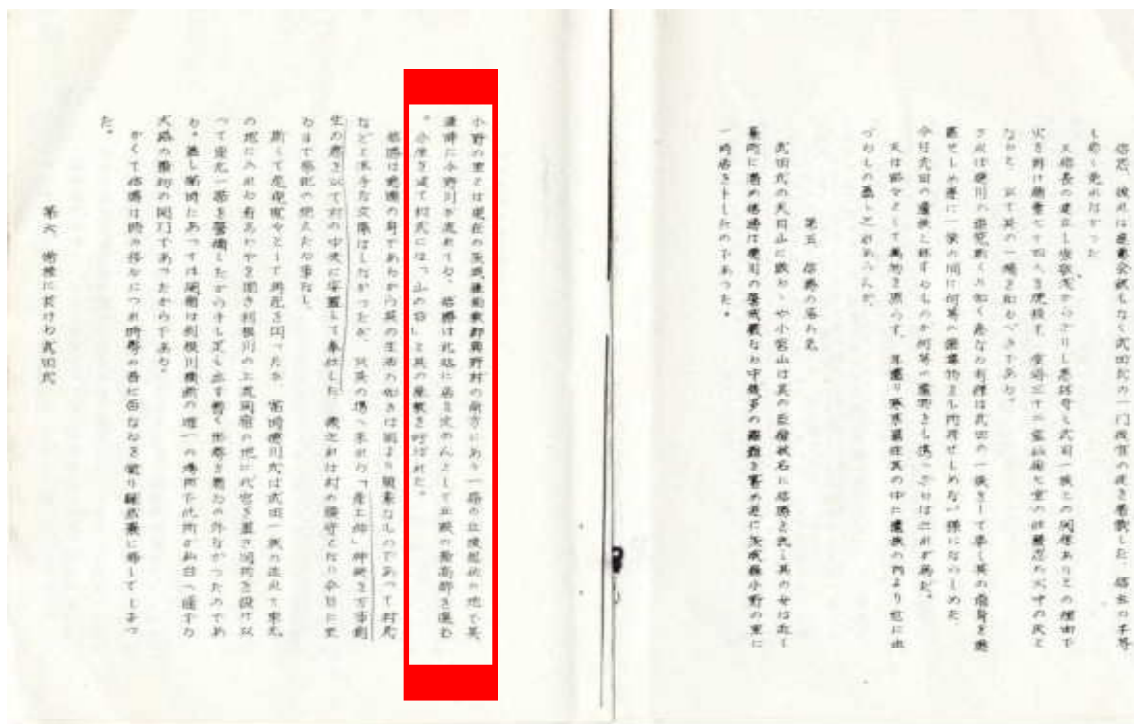


だい 3 かつより こ よしのぶ のぶかつ
第3 勝頼の子 義信と信勝のゆくえ

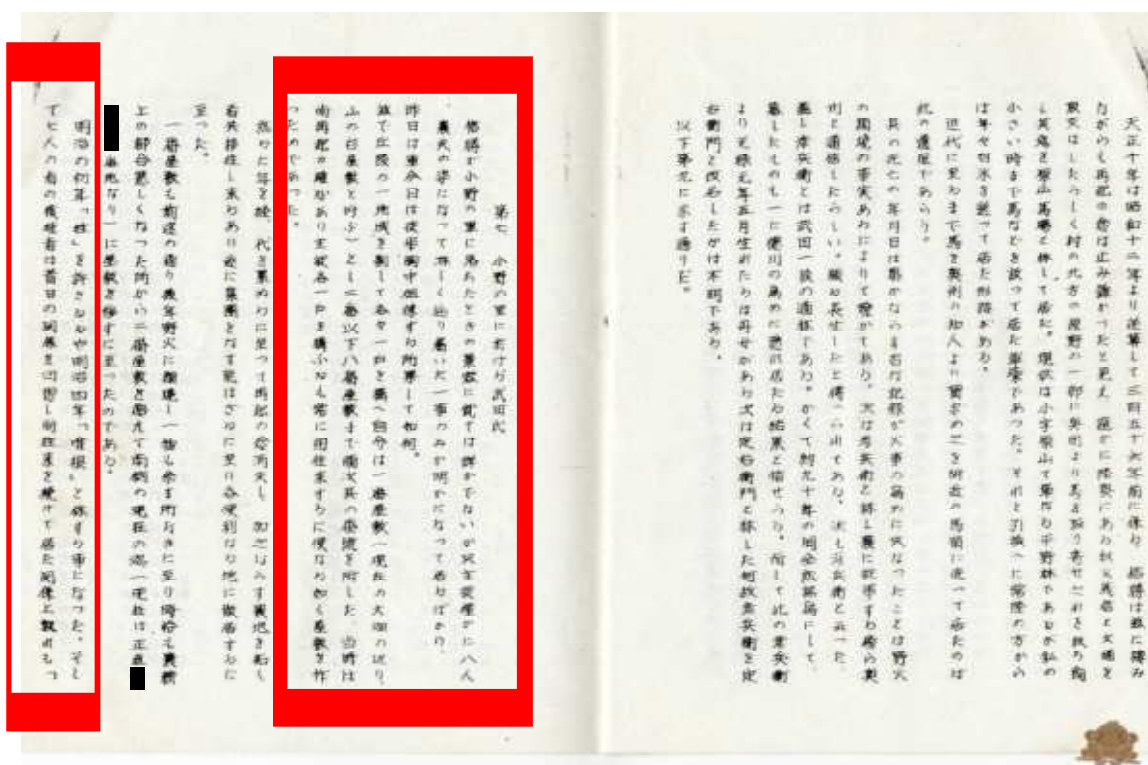


かつより のぶかつ かんどう むつ
勝頼が、信勝に「なんじは、間道よりのがれて、陸奥にさるべし」(おじ
の義信をたより、さいきをはかれ)

第5 信勝のぶかつ（勝頼かつよりの子）のおちさきこ

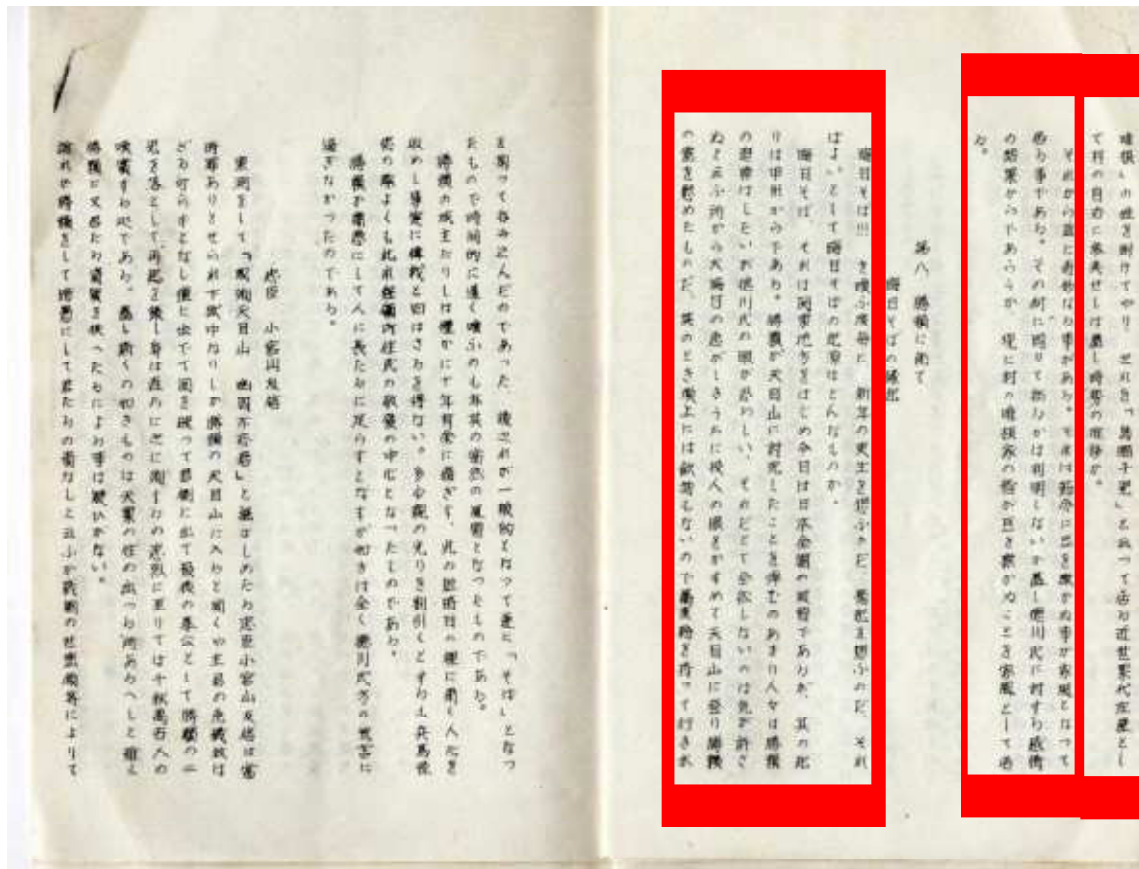


信勝は、^{おの}小野の^{さと}里（^{おくのむらな}奥野村南方）にこやをたて、すむことにした。



そこは、「^{やま}山の^{だい}台やしき」とよばれていた。

そして・・・



めいじ4ねん、いちぞくは、「唯根」^{ゆいね}となのるようになった。しょうや(のうみんのとりまとめ)などもつとめたんだ。

びっくり!

これらのいえいえでは、じつにふしぎなことが・・・。
それはね・・・。

せつぶん^{せつぶん}に まめを まかないんだよ。

びっくり！

わけは、はっきりしないが、
徳川^{とくがわし}氏にたいする はんかん
がそうさせたのかもしれない
ね？ 

まだまだあるよ。大晦日そ
ば（としこしそば）のきげんは、甲
州から。なんでも、**ばくふ**に
わからないように、いそがし
い**おおみそ**かに てんもくざ
んにのぼり、**かつより**のれい
をなぐさめたのが、はじまり
だというんだ。



かつよりのちちといえは、

びっくり！

あの



ただだしんげんだ

ただだしんげん

は、
もっとも ゆうめいな せん
ごくだいましょうのひとり。う
えすぎけんしんとたたかった
かわなかじまのたたかいはゆ
うめいだ。



(歴史トラベルより)

でも、このたたかいのしょうぶは、つかなかったんだ。そのご、**きょう**をめざしたが、そのとじょうで、なくなっただ。

信玄^{しんげん}には、こどもが、ふたり。
ちょうなん^{よしのぶ}義信、じなん^{かつより}勝頼だ。
義信は、陸奥^{むつ}の南部氏^{なんぶし}にみをおいていた。信玄のさいだいりょううちは、**このはんい**。



(歴史トラベルより)

信玄^{しんげん}なきあと あとをつい
だ勝頼^{かつより}は、しなのいっこくを
てにいれ、このはんいまでり
ようちをひろげたんだ。

びっくり！



(歴史トラベルより)

しかし、たたかいにまけて、
天目山^{てんもくざん}でじがいしてはてた。

※ここで、ミニミニじょうほう。

よく「無^む能^{のう}の愚^ぐ将^{しょう}」とい
われる勝^{かつ}頼^{より}だが、じつは、
父^{ちち}信^{しん}玄^{げん}よりひろいりょうど
をかちと
ったじん
ぶつ。

能力^{のうりよく}が
あり、実^{じつ}
績^{せき}もあつ
た武^ぶ将^{しょう}だ
ったん
だ。



(ウィキペディアより)
びっくり!

そのとき、勝頼^{かつより}は、むすこ
信勝^{のぶかつ}に

「なんじは、間道^{かんだう}よりのがれ
て陸奥^{むつ}にさるべし」
といった。

それをきいた
忠臣^{ちゆうしん}小宮山^{こみやま}友信^{とも}
が、くろう
して、信勝^{のぶかつ}がし
んだことをよそ

おって、7にんのけらい^{けらい}をつ
けてのがしてくれた。

いっこうは、いわれたとお
り陸奥^{むつ}にむかった。



ウィキペディアより

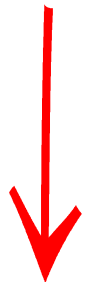
しかし、徳川^{とくがわ}氏が、それをおそれ関宿^{せきやど}（利根川^{とねがわ}をわたるゆいいつのぼしよ）に関所^{せきしよ}（仙台^{せんだい}につうじるみち）をつくって、それをそし。

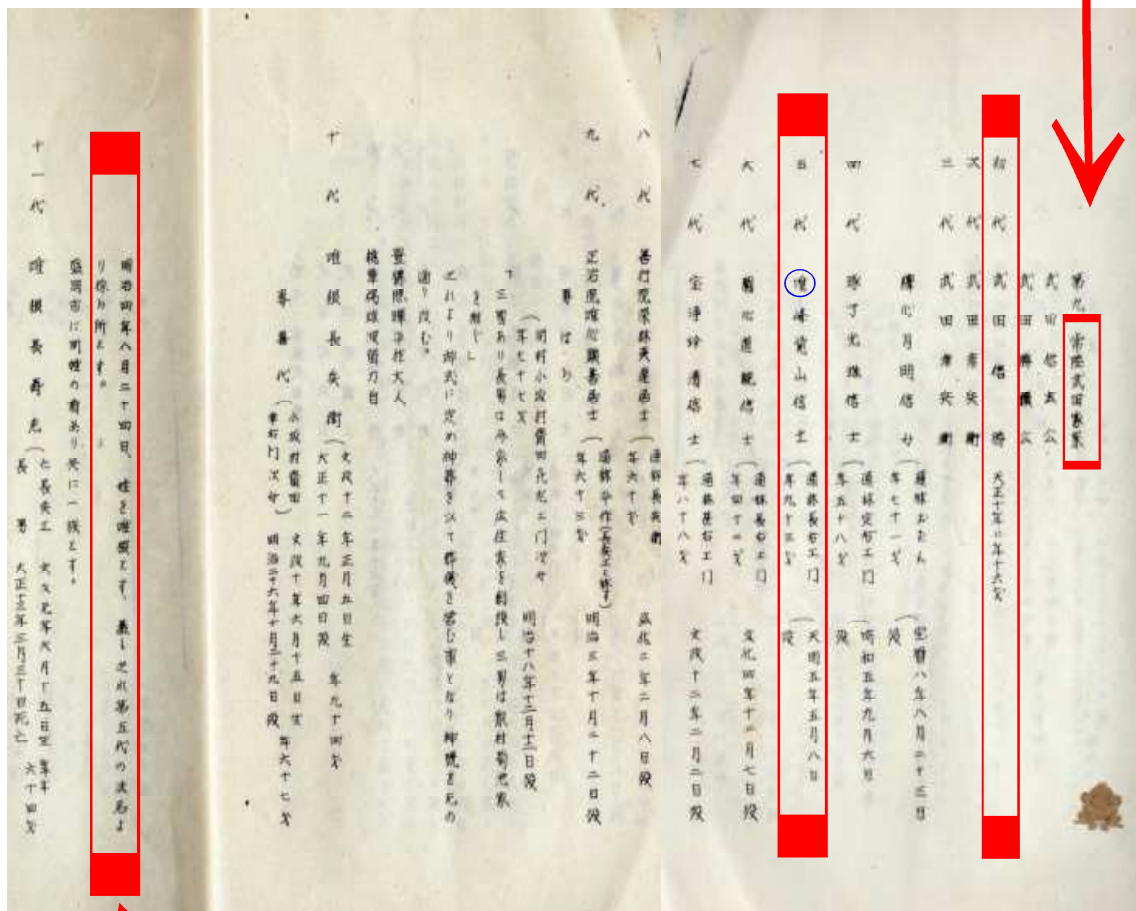
そのため、べつのみちをもとめて、このちにのがれ、すむことになったんだ。

これが

ひたちたけだかけい

常陸武田家系

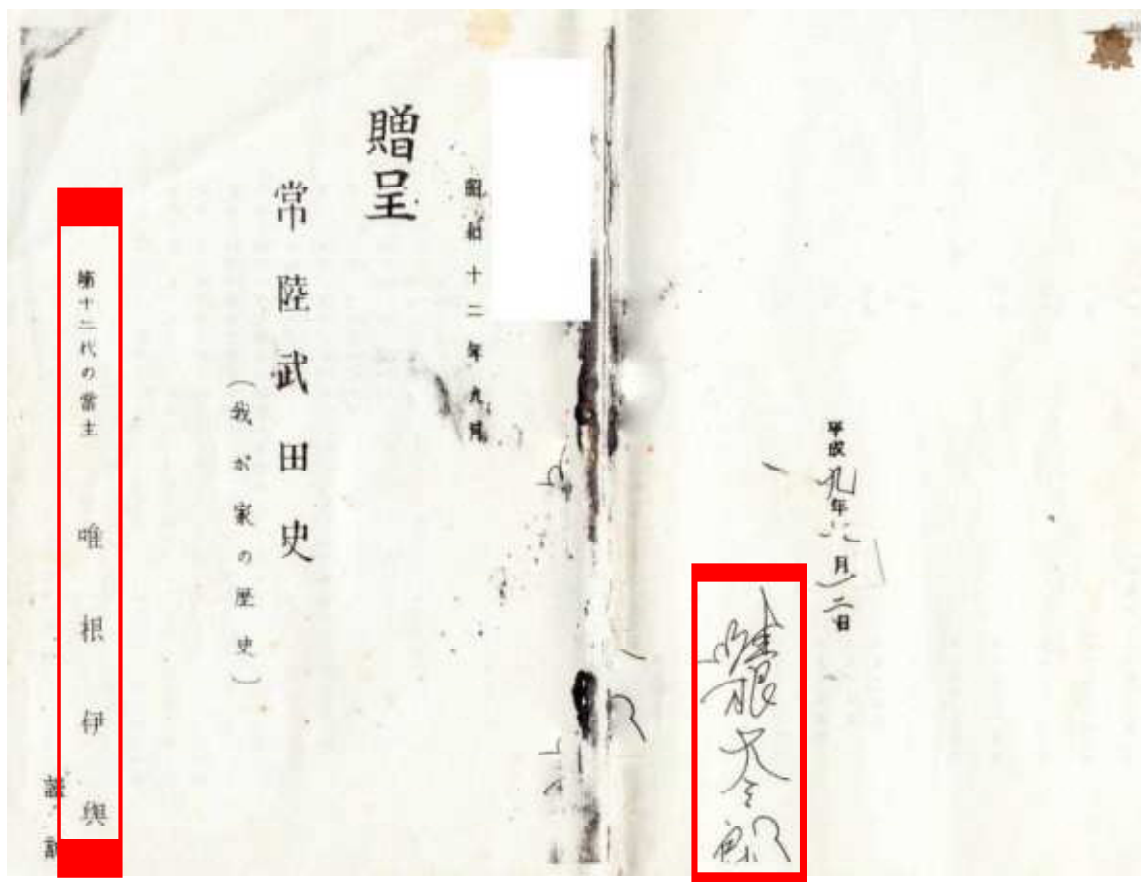




5 だ い め の 法 名 の 一 字 を と
 っ て せ い を 唯 根 と し 7 に ん の
 継 承 者 に つ け ら れ た 。 ち な み
 に 、 1 2 だ い め が 、 こ の ほ ん
 を か い た 唯 根 伊 與 さ ん な ん だ
 よ 。



その3男が、^{なん}大三郎^{だいさぶろう}さん（弁護士としてかつやく）。だい13だいうしゅだ。^{ちょうべえ}ちゃんにこのほんをおくったひとだ。



すごい

でも、^{だいさぶろう}大三郎さんは、どう
して^{ちょうべえさん}ちょうべえさんにこのほ
んをあげたのかな？

じつはね。^{ちょうべえさん}ちょうべえさん
は、7にんの^{けらい}けらいの^{まつ}まつ
^{えい}えいだったんだ。

だから^{ひたちたけだし}常陸武田史をいた
だくことができたんだよ。

あ！そうか
そうだったのか

唯根^{ゆい ね}家は、
常陸武田家系^{ひ た ち た け だ か け い}なんだ。

なっちゃん、びっくり！

そして

おおよろこび

おじいちゃんも、^{た け だ し ん げ ん}武田信玄
のまご^{た け だ の ぶ か つ}武田信勝が、さいきを
はかるためにしょうじきにす
んでいたことに

そして、その^{ま つ え い}末裔が、いま
なお がんばっていることに

びっくり!

おりしもおくのちくには、
かまくらかいどうがある。



しまだのかまくらかいどう

ここを、小田氏をたおすた
めに上杉謙信が、とおった。



※どうして、謙信が、小田氏をせめたの？



それはね、小田氏は、はじめ上杉謙信にしたがったものの、たいりつする佐竹氏を牽制するため、北条氏にぞくすことにしたからなんだ。そのため、小田城は上杉氏や佐竹氏にせめられることになったんだ。

川中島で雌雄をあらそった
ふたりが、このちでふたたび
であったようなきがした。

あ~ たのしかった

と ふたりは ちょうべえさんにおれいをいって、おじいちゃんとかえっていった。

なっちゃん、やっぱり、
ひ た ち た け だ か け い ゆ い ね け
常陸武田家系（唯根家）
は、おくのちくのたから
ものの一つだということ
が、よくわかった。

さて



こんどは、なにを しらべようかな？

あれあれ？「すごーくたのしかった」と なぜなぜ
くん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら か
えっていった。



またね

参考文献 常陸武田史